薬物依存症の方への就労支援に関する研究

就労支援機関を対象とした依存症に対する実態および意識調査報告書

国立精神・神経医療研究センター

はじめに

近年、障害者の就労者数は順調に伸びている一方で、依存症の方への就労に関する状況は明らかになっていない現状です。その背景として、依存症であることを公表することで雇用の機会を失うことを懸念し、多くの場合は依存症であることを伏せて就労していることが影響していると考えられます。

薬物依存症の方等を対象とする民間回復支援施設ダルクでの調査結果では、入所者の２年後の就労率（福祉的就労含む）は39.1％（嶋根ら2020）とされていますが、未就労者の多くは、重複障害や高齢、長期にわたる刑務所での生活による就労経験の乏しさなどにより社会参加・就労が困難な状況であることが指摘されています。

昨年度、本研究では薬物依存症の方への就労支援に向けて、依存症の方への就労の実態および依存症の方に対する雇用機関の意識を明らかにすることを目的に、障害者雇用に理解のある企業の取り組みとして特例子会社を対象にアンケート調査（引土ら2020）を実施しました。その結果、調査協力を得た特例子会社181社（回収率39％）の障害者雇用総数7,696名のうち、依存症と診断を受けた人は８名（0.1％）であり、依存症であることを公表して就労することの難しさが見えてきました。

本調査では、関東１都６県の就労支援機関を（就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業所）を対象とし、依存症の方への就労支援の実態および依存症の方に対する就労支援機関の意識を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施しました。

本報告書では、アンケート結果の概要をお示ししています。

日常業務に加え、多くの調査依頼のある中で、本調査にご協力をいただきました就労支援機関のみなさまには心から感謝申し上げます。

2022年１月

日本女子大学人間社会学部社会福祉学科
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部
引土絵未

1. アンケート調査の概要

アンケート調査は、関東１都６県の就労支援機関（就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業所）4,606箇所を対象とし、調査用紙と協力依頼文書等を郵送し（2020年12月～2021年１月）、そのうち2,353施設から回答をいただきました（協力率51.1％）。

アンケート調査項目は以下の通りです。詳しい調査項目は巻末の調査票をご参照ください。

Ⅰ．事業所の概要
- １．該当事業
- ２．回答者の立場
- ３．利用者の状況

Ⅱ．依存症者の利用について
- １．依存症(と診断を受けた人) 者の利用について
  - ▶依存症専門施設か
  - ▶利用者数
  - ▶利用の経緯
  - ▶依存症者の利用において問題が生じた経験
  - ▶依存症者の利用による良い影響
  - ▶依存症者の雇用における留意点

Ⅲ．依存症者の就労支援に対するご意見
- １．依存症者の利用について
  - アルコール・薬物・ギャンブル依存症者の雇用に対する懸念
- ２．依存症者の就労支援促進について
  - アルコール・薬物・ギャンブル依存症者の就労支援促進要因
- ３．依存症者のイメージ
  - アルコール・薬物・ギャンブル依存症者のイメージ
- ４．依存症者の精神障害分類への認識

2. 調査協力施設の概要

アンケート協力者の施設種別は就労継続支援B型事業所（62%）が最も多く、次いで就労移行支援事業所（25%）、就労継続支援A型（12%）であった。（図1）

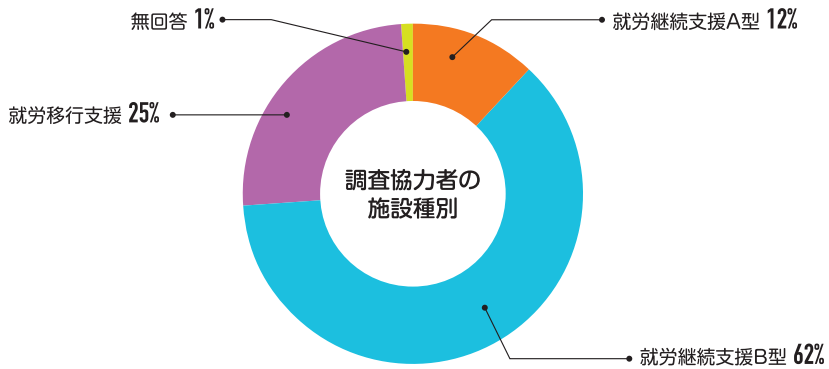


図1　調査協力者の事業種別

調査に協力を得た就労支援施設2,353施設において、令和2年12月1日時点での登録者の総数は49,189名で、そのうち精神障害者手帳を所持している登録者は20,267名（1,769施設）でした。

3. 依存症の方の利用について

調査に協力を得た就労支援施設（2,353施設）において、**依存症と診断を受けた人が利用している施設は389施設（16.5%）**で、そのうち14施設が依存症を専門とする施設でした。

依存症別の内訳では、アルコール依存症の方を受け入れている施設が268施設（11.3%）、薬物依存症の方が98施設（4.1%）、ギャンブル依存の方が85施設（3.6%）でした。

依存症の方が利用に至った経緯は、行政機関からの紹介（131施設）が最も多く、次いで医療機関からの紹介（104施設）、本人からの申請（100施設）などでした。

依存症の方の利用に際して問題が生じたことがあるかについて、57%が問題が生じたことがあると回答し、再飲酒・再使用（128施設）が最も多く、次いで遅刻・欠勤・退所などによる事業への影響（106施設）、人間関係のトラブル（68施設）、金銭的なトラブル（66施設）があったと回答がありましたが、43%の施設ではトラブルはなかったと回答しています。

依存症の方が利用することで良い影響が生じたことがあるかについて、35%が良い影響が生じたことがあると回答し、「作業能力が高い」、「職員が依存症について学ぶ機会となった」、「面倒見が良い」、「人間関係の安定に貢献している」などの回答がありました。

依存症の方の利用に際して留意している点として、「利用時の見守りや声かけ、定期的な面談」、「アルコールの話題や食事の際のアルコール成分に気を付ける」、「他の利用者との人間関係に配慮する」、「生活リズムを整える」、「再飲酒・再使用時に本人を責めない」、「金銭管理に配慮する」、「医療機関や関係機関との連携」などの回答がありました。

4. 依存症の方が利用する上での懸念

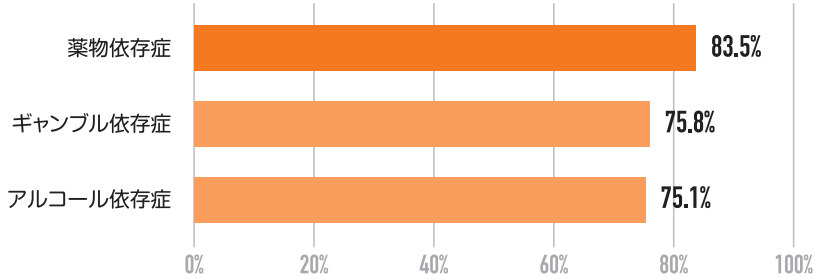


図2　依存症の方の別利用に対する懸念の有無

依存症の方（主治医から利用の許可を得た申請者）を受け入れる際の懸念点の有無について、懸念点があるとの回答について依存症別にみると、薬物依存症が83.2%と最も多く、次いでギャンブル依存症75.8%、アルコール依存症75.1%とすべての依存症において高い懸念が示されました（図2）。

依存症の方の利用に対する懸念の有無について、依存症の方が利用する施設と利用していない施設において比較をした結果、**依存症の方が利用する施設の方が「懸念がある」と回答する人の割合が低い**ことが示されました（表1）。

表1　依存症の方の利用の有無による利用に対する懸念があると回答した人の割合の比較

	依存症と診断を受けた人が利用していない	依存症と診断を受けた人が利用している（依存症専門施設を除く）	p
アルコール	77.6% (n=1484)	68.6% (n=247)	0.000***
薬物	85.6% (n=1633)	79.4% (n=285)	0.003**
ギャンブル	78.5% (n=1486)	72.2% (n=260)	0.008**

Pearsonのカイ二乗検定　***p<0.001 **p<0.01

依存症の方の利用を受け入れる上での懸念の内容と程度について、「全く懸念しない：1」から「強く懸念する：5」で回答を得ました。依存症別に各項目の平均値を図3に表しています。

最も懸念されているのは、「スタッフが依存症の知識がない」で、次いで「ほかの利用者との人間関係」、「遅刻・欠勤・退職などの業務への影響」が挙げられました。

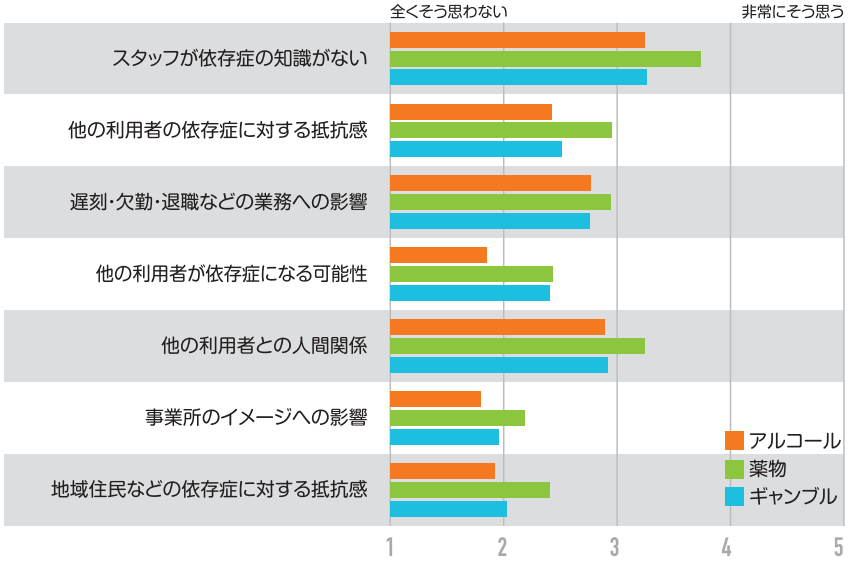
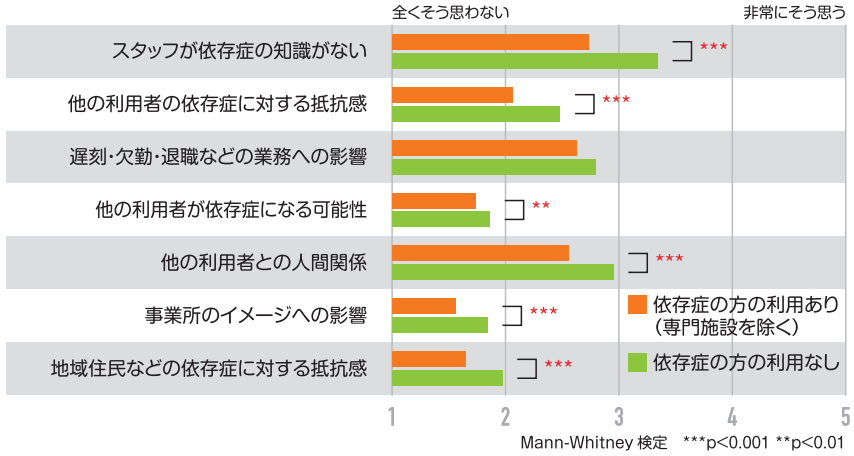


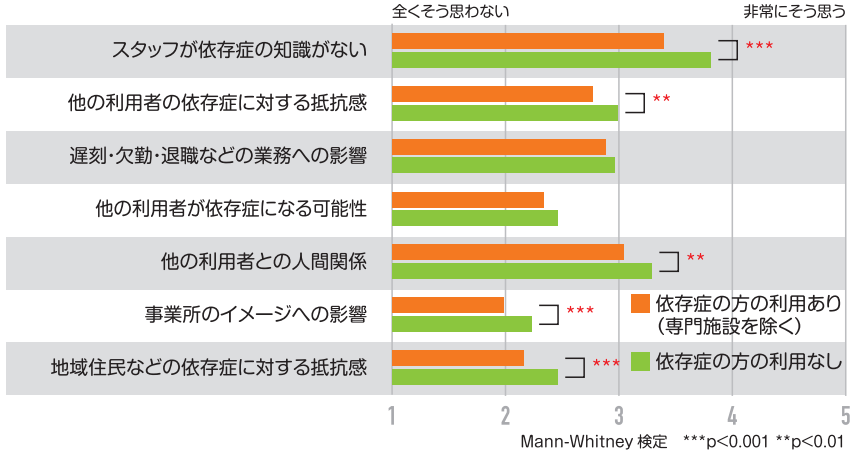
図3　依存症の方の利用受け入れ上の懸念点

依存症の方の利用を受け入れる上での懸念の内容と程度について、依存症別に依存症の方が利用する施設と利用していない施設において比較をした結果、ほとんどの項目において**依存症の方が利用している施設の方が懸念の程度が低い**ことが示されました（図4～6）。



Mann-Whitney 検定　***p<0.001 **p<0.01

図4　アルコール依存症の方の利用上の懸念について依存症の方の利用の有無による比較



Mann-Whitney 検定　***p<0.001 **p<0.01

図5　薬物依存症の方の利用上の懸念について依存症の方の利用の有無による比較

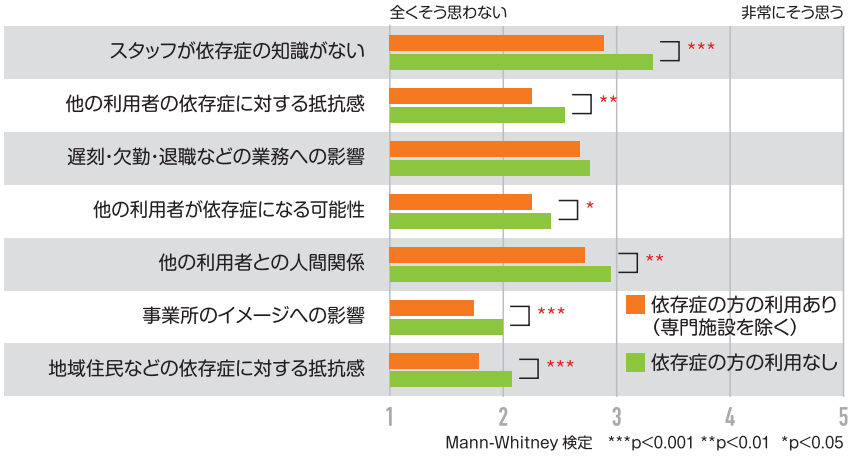


図6　ギャンブル依存症の方の利用上の懸念について依存症の方の利用の有無による比較

以上のように、実際に依存症の利用者を受け入れている施設では懸念の程度が低いことが見えてきました。

5. 依存症の方への就労支援の促進について

どのような状況があれば依存症の方への就労支援が促進されるかについて「全く必要ではない：1」から「非常に必要：5」で回答を得ました。各項目の平均値を図5に表しています。

すべての項目において高い必要性が示されていますが、特に研修や相談・緊急支援体制など実践的な課題への対処方法が求められていることが示されました。

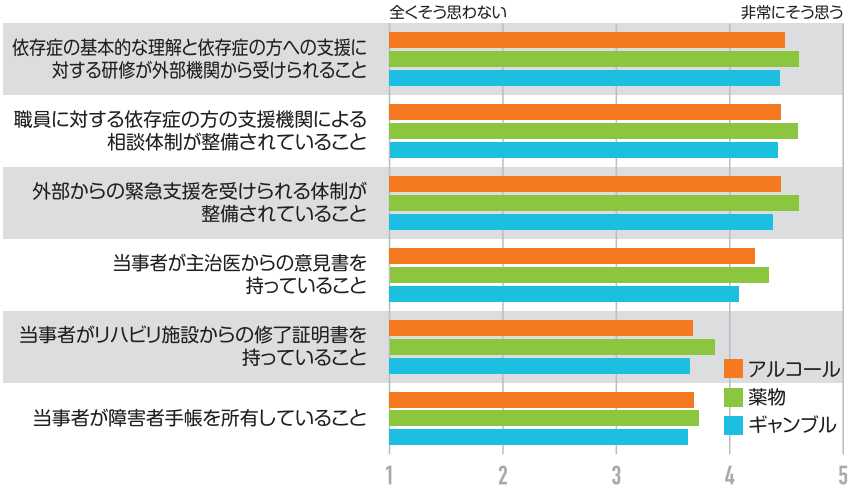


図7　依存症別依存症の方への就労支援の促進要因

6. 依存症の方のイメージ

依存症の方についてどのように考えているかについて、「全くそう思わない：1」から「非常にそう思う：5」で回答を得ました。各項目の平均値を図8に表しています。この項目は、精神障害者のスティグマに対する質問項目（Linkスティグマ尺度日本語版）を参考にして作成され、得点が高いほどスティグマが強いことが示されます。

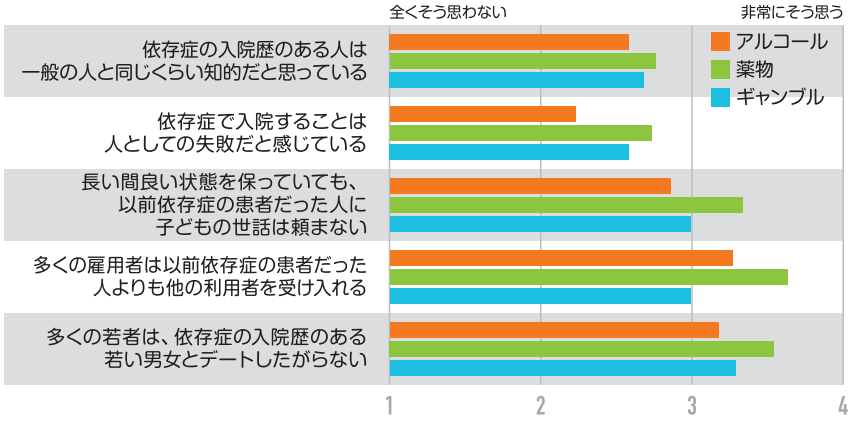


図8　依存症別依存症の方のイメージ

上記と同様に依存症と診断を受けた人の利用の有無によるスティグマ得点の差異を検証したところ、アルコール依存症については依存症と診断を受けた人が利用している施設は、利用していない施設よりもスティグマが低いことが示されました。一方で、薬物とギャンブル依存症については、依存症の方が利用している施設としていない施設の間に有意な差は認められませんでした。(表2)。

表2　依存症の方の利用の有無による依存症別スティグマ得点の比較

	依存症と診断を受けた人が利用していない	依存症と診断を受けた人が利用している（依存症専門施設を除く）	p
アルコール	14.29	13.89	0.040*
薬物	16.21	15.81	0.080
ギャンブル	14.69	14.39	0.216

Mann-Whitney検定　*p<0.05

7. 精神障害への分類

依存症の方も条件を満たす場合には、精神障害者に分類されることを知っているかについて、知っていると回答した人は79.3%でした。特例子会社の調査では約半数だったことと比較すると、より多くの方の理解を得ていることが分かりました。

おわりに

今回の調査は、就労支援機関における依存症の方の利用状況と、就労支援機関において依存症の方への就労支援に対してどのようなご意見をおもちか明らかにすることを目的に行いました。

調査協力機関において、依存症の方が利用している施設は16.5%であり、また、依存症の方が利用する上での懸念があると回答した施設が8割前後と、依存症に対する懸念が高く示されました。

一方で、依存症の方が利用している施設では、利用していない施設と比較して、懸念が低いことも示されました。今回の調査では、懸念が低いために利用があるのか、利用があることで懸念が低くなるのか、これらの因果関係は明らかになっていません。しかしながら、自由記述では、実際に依存症の方が利用することで、スタッフが知識や経験を得ているというご意見が多数あげられており、実際の支援を通して懸念が低減していく側面が推察されました。

自由記述では多様なご意見をいただきました。「改めて依存症について考えるきっかけとなった」というご意見や「依存症は誰にでも起こりうると考えますので、一度依存症と診断された方の居場所がないのは良くない」などのご意見も心強く拝見しました。最も多いご意見は「職員に知識がないので、事前研修が必須」、「離脱症状が現れた際の対処法や、相談・連携できる機関を知ることのできる機会があればぜひ参加したい」、「依存症支援機関と就労支援事業と就労先との連携事例の知識を得たい」などの研修へのご要望でした。

今後、本調査結果が、一人でも多くの依存症の経験を有する人が希望する就労の機会を得ることにつながるように、依存症の正しい知識の普及に取り組んでまいりたいと考えております。

【参考文献】

嶋根卓也，喜多村真紀，猪浦智史，引土絵未，山田理沙，近藤あゆみ，米澤雅子，近藤恒夫：民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究（ダルク追っかけ調査2019）．厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策，令和元年度総括・分担研究報告書，2020.

引土絵未, 嶋根卓也, 小高真美, 秋元恵一郎, 加藤隆, 栗栖次郎, 栗坪千明, 山村りつ, 吉野美樹，松本俊彦：薬物依存症者の就労に関する研究　特例子会社を対象とした依存症者の就労に関する意識調査．日本アルコール・薬物医学会雑誌，55（5）83, 2020.

下津 咲絵，坂本 真士：精神障害に対する態度、偏見、Link スティグマ尺度（精神科臨床評価検査法マニュアル改訂版），臨床精神医学，39, 114-120, 2010.

令和2年度厚生労働省 依存症に関する調査研究事業

依存症者の就労支援の状況とご意見に関するアンケート調査

- 本調査は、関東地方の就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業所を対象として、依存症者の就労支援についての現状やご意見をお伺いすることを目的としております。
- 同一法人内で複数の事業を実施されている場合は、事業ごとに調査票をお送りしておりますので、大変お手数ですが**事業ごと**にご回答をお願いいたします。
- 本調査は無記名調査となっており、個人および事業所が特定される情報等をお伺いすることはありません。
- **現在、依存症の方を支援していない場合でも、依存症者の就労に対するお考えをお伺いさせていただくことが、貴重な資料となります。ご多用のところ大変恐縮ですが是非ご協力をお願いいたします。**
- **調査票は、同封の返信用封筒にて、無記名で 1月20日（水） までにご返送ください。**

調査に関するお問い合わせ先

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部
日本女子大学人間社会学部福祉学科　引土絵未（ひきつちえみ）
Email : hikitsuchi@ncnp.go.jp / hikitsuchie@fc.jwu.ac.jp

調査実施主体

株式会社　マイ.ビジネスサービス.
〒460-0008　名古屋市中区栄2-13-1名古屋パークプレイス3F
TEL.052-201-7533

Ⅰ. 事業所の概要について

1 ご回答いただく該当事業をお答えください。

1. 就労継続支援A型　2. 就労継続支援B型　3. 就労移行支援

2 ご回答いただく方のお立場をお答えください。

1. 施設長　2. 相談支援専門員　3. サービス管理者
4. その他（　　）

3 貴事業所の利用者の状況についてお答えください。

1 貴事業所の令和2年12月1日現在の登録者数をお答えください。

登録者数　（　　）人

2 そのうち精神障害者手帳を所持している登録者数をお答えください。

精神障害者手帳所持者　（　　）人

Ⅱ. 依存症者の利用について

以下の設問では、依存症者の事業所利用についての質問をしています。ここでいう依存症者とは以下の状態を指しています。

アルコール・薬物（覚せい剤や大麻などの違法薬物だけでなく、処方薬などの合法薬物も含む）・ギャンブルなどにより、仕事・学業・家庭において様々な問題が生じていながらも、アルコール・薬物の使用やギャンブル等を行うことが優先され、コントロールができない状態。

1 現在（令和2年12月1日現在）、貴事業所では依存症と診断を受けた人が利用していますか？

利用している　・　利用していない

→「利用していない」と回答された場合、Ⅲ. 依存症者の就労支援に対するご意見について からお答えください。

→「利用している」と回答された場合、以下の **1** からお答えください。

1 貴事業所は依存症者の支援を専門とする施設ですか？

はい　・　いいえ

2 依存症と診断を受けた人は何人利用（令和2年12月1日現在）していますか？

アルコール依存症	（　　）人
薬物依存症	（　　）人
ギャンブル等依存症	（　　）人

3 依存症と診断を受けた人が貴事業所を利用するに至った経緯について該当する項目に〇をつけてください。（複数回答可）

1. 医療機関からの紹介
2. 行政機関からの紹介
3. 司法機関からの紹介
4. 就労移行支援事業所からの紹介
5. 就労継続支援A型事業所からの紹介
6. 就労継続支援B型事業所からの紹介
7. 依存症回復支援施設からの紹介
8. 本人からの申請
9. その他（　　）

4 これまでに貴事業所で依存症者が利用する上で問題が生じたことはありますか？

問題が生じたことがある　・　問題が生じたことはない

→「問題が生じたことがある」と回答された場合、どのような問題であったか、以下の項目から該当するものに〇をつけてください。（複数回答可）

1. 再飲酒・再使用などがあった
2. 遅刻・欠勤・退職などによる業務への影響
3. 他の従業員と人間関係のトラブル
4. 金銭的なトラブル
5. 地域や関係機関からのクレーム
6. その他（　　）

5 依存症者が利用することで事業所運営や人間関係などにおいて良い影響がありましたか？

良い影響がある　・　良い影響はない

「良い影響がある」と回答された場合、どのような良い影響であったか、ご自由にご記入ください。

6 依存症者の利用において留意されている点などご自由にご記入ください。

7 依存症者の利用に際して関係機関との連携で留意されている点などご自由にご記入ください。

Ⅲ．依存症者の就労支援に対するご意見について

1 依存症者の事業所の利用について、あなたのご意見をお伺いします。

1 アルコール依存症と診断を受けた人が治療・リハビリを終了し、主治医から就労に向けた事業所の利用の許可がおりたため、貴事業所に申請してきました。作業経験・能力などに問題はなく、利用の適性がある人です。利用受け入れに際して懸念する点はありますか？

受け入れに際して懸念する点がある　・　受け入れに際して懸念する点はない

「受け入れに際して懸念する点がある」と回答された方は、以下の項目について懸念の程度について該当するものに○をつけてください。

	強く懸念する	やや懸念する	どちらともいえない	あまり懸念しない	全く懸念しない
スタッフがアルコール依存症の知識がない	5	4	3	2	1
他の利用者のアルコール依存症に対する抵抗感	5	4	3	2	1
遅刻・欠勤・退職などによる業務への影響	5	4	3	2	1
他の利用者がアルコール依存症になる可能性	5	4	3	2	1
他の利用者との人間関係	5	4	3	2	1
事業所のイメージへの影響	5	4	3	2	1
地域住民などからのアルコール依存症者の利用に対する抵抗感	5	4	3	2	1

2 薬物依存症と診断を受けた人が治療・リハビリを終了し、主治医から就労に向けた事業所の利用の許可がおりたため、貴事業所に申請してきました。作業経験・能力などに問題はなく、利用の適性がある人です。利用受け入れに際して懸念する点はありますか？

受け入れに際して懸念する点がある　・　受け入れに際して懸念する点はない

「受け入れに際して懸念する点がある」と回答された方は、以下の項目について懸念の程度について該当するものに○をつけてください。

	強く懸念する	やや懸念する	どちらともいえない	あまり懸念しない	全く懸念しない
スタッフが薬物依存症の知識がない	5	4	3	2	1
他の利用者の薬物依存症に対する抵抗感	5	4	3	2	1
遅刻・欠勤・退職などによる業務への影響	5	4	3	2	1
他の利用者が薬物依存症になる可能性	5	4	3	2	1
他の利用者との人間関係	5	4	3	2	1
事業所のイメージへの影響	5	4	3	2	1
地域住民などからの薬物依存症者の利用に対する抵抗感	5	4	3	2	1

3 ギャンブル等依存症と診断を受けた人が治療・リハビリを終了し、主治医から就労に向けた事業所の利用の許可がおりたため、貴事業所に申請してきました。作業経験・能力などに問題はなく、利用の適性がある人です。利用受け入れに際して懸念する点はありますか？

受け入れに際して懸念する点がある　・　受け入れに際して懸念する点はない

「受け入れに際して懸念する点がある」と回答された方は、以下の項目について懸念の程度について該当するものに○をつけてください。

	強く懸念する	やや懸念する	どちらともいえない	あまり懸念しない	全く懸念しない
スタッフがギャンブル等依存症の知識がない	5	4	3	2	1
他の利用者のギャンブル等依存症に対する抵抗感	5	4	3	2	1
遅刻・欠勤・退職などによる業務への影響	5	4	3	2	1
他の利用者がギャンブル等依存症になる可能性	5	4	3	2	1
他の利用者との人間関係	5	4	3	2	1
事業所のイメージへの影響	5	4	3	2	1
地域住民などからのギャンブル等依存症に対する抵抗感	5	4	3	2	1

2 依存症者の就労支援促進についてあなたのご意見をお伺いします。

1 どのような状況があればアルコール依存症と診断を受けた人の就労支援事業所利用が促進されると思いますか？該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常に必要だと思う	少し必要だと思う	どちらともいえない	あまり必要ではない	全く必要ではない
アルコール依存症の基本的な理解と依存症者支援に対する研修が外部機関から受けられること	5	4	3	2	1
職員に対するアルコール依存症支援機関による相談体制が整備されていること	5	4	3	2	1
外部からの緊急支援体制を受けられる体制が整備されていること	5	4	3	2	1
当事者が主治医からの意見書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者がリハビリ施設からの修了証明書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者が障害者手帳を保有していること	5	4	3	2	1

2 どのような状況があれば薬物依存症と診断を受けた人の就労支援事業所利用が促進されると思いますか？該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常に必要だと思う	少し必要だと思う	どちらともいえない	あまり必要ではない	全く必要ではない
薬物依存症の基本的な理解と依存症者支援に対する研修が外部機関から受けられること	5	4	3	2	1
職員に対する薬物依存症支援機関による相談体制が整備されていること	5	4	3	2	1
外部からの緊急支援体制を受けられる体制が整備されていること	5	4	3	2	1
当事者が主治医からの意見書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者がリハビリ施設からの修了証明書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者が障害者手帳を保有していること	5	4	3	2	1

3 どのような状況があればギャンブル等依存症と診断を受けた人の就労支援事業所利用が促進されると思いますか？該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常に必要だと思う	少し必要だと思う	どちらともいえない	あまり必要ではない	全く必要ではない
ギャンブル等依存症の基本的な理解と依存症者支援に対する研修が外部機関から受けられること	5	4	3	2	1
職員に対するギャンブル等依存症支援機関による相談体制が整備されていること	5	4	3	2	1
外部からの緊急支援体制を受けられる体制が整備されていること	5	4	3	2	1
当事者が主治医からの意見書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者がリハビリ施設からの修了証明書を持っていること	5	4	3	2	1
当事者が障害者手帳を保有していること	5	4	3	2	1

3 依存症のイメージについてお答えください。

1 貴事業所の利用者やスタッフが、アルコール依存症の人についてどのように考えているかについて、あなたのご意見をお伺いします。該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常にそう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
アルコール依存症の入院歴のある人は一般の人と同じくらい知的だと思っている。	5	4	3	2	1
アルコール依存症で入院することは人としての失敗だと感じている。	5	4	3	2	1
長い間良い状態を保っていても、以前アルコール依存症の患者だった人に子どもの世話は頼まない。	5	4	3	2	1
多くの雇用者は以前アルコール依存症の患者だった人よりも他の利用者を受け入れる。	5	4	3	2	1
多くの若者は、アルコール依存症の入院歴のある若い男女とデートしたがらない。	5	4	3	2	1

2 貴事業所の利用者やスタッフが、薬物依存症の人についてどのように考えているかについて、あなたのご意見をおお伺いします。該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常にそう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
薬物依存症の入院歴のある人は一般の人と同じくらい知的だと思っている。	5	4	3	2	1
薬物依存症で入院することは人としての失敗だと感じている。	5	4	3	2	1
長い間良い状態を保っていても、以前薬物依存症の患者だった人に子どもの世話は頼まない。	5	4	3	2	1
多くの雇用者は以前薬物依存症の患者だった人よりも他の利用者を受け入れる。	5	4	3	2	1
多くの若者は、薬物依存症の入院歴のある若い男女とデートしたがらない。	5	4	3	2	1

3 貴事業所の利用者やスタッフが、ギャンブル等依存症の人についてどのように考えているかについて、あなたのご意見をお伺いします。該当する数字のうち1つに○をつけてください。

	非常にそう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
ギャンブル等依存症の入院歴のある人は一般の人と同じくらい知的だと思っている。	5	4	3	2	1
ギャンブル等依存症で入院することは人としての失敗だと感じている。	5	4	3	2	1
長い間良い状態を保っていても、以前ギャンブル等依存症の患者だった人に子どもの世話は頼まない。	5	4	3	2	1
多くの雇用者は以前ギャンブル等依存症の患者だった人よりも他の利用者を受け入れる。	5	4	3	2	1
多くの若者は、ギャンブル等依存症の入院歴のある若い男女とデートしたがらない。	5	4	3	2	1

4 依存症も条件を満たす場合には、精神障害者に分類されることを知っていますか？

知っている　・　知らない

5 その他、依存症者の就労支援についてご意見・ご要望・期待することなどございましたらご自由にご記入ください。

6 本研究では、就労支援機関における依存症者の利用についてインタビュー調査を予定しております。インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか？

協力できる　・　協力できない

※インタビューにご賛同・ご協力いただける場合にのみ、質問紙に付与してあるID番号から送付先住所を確認し、改めて調査のご協力のご連絡をさせていただきます。（インタビュー概要については別紙をご参照ください）

ご協力ありがとうございました

薬物依存症の方とその家族への支援に関する資料

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部では、各種資料をインターネットで公開しています。

▶ 覚せい剤事犯者の理解とサポート2018

全国の刑事施設に入所している覚せい剤事犯者を対象とした実態調査の結果をまとめたパンフレットです。法務省法務総合研究所と薬物依存研究部との初めての共同プロジェクトです。

▶ ダルク追っかけ調査2018

薬物依存の民間支援団体ダルク利用者の経過を前向きに追跡している「ダルク追っかけ調査」の調査結果をまとめたパンフレットです。全国46団体の利用者を2年間にわたり追跡した結果が掲載されています。

▶ First Aid Prevention Program（FARPP）入院中に始めるプログラム

薬物問題を抱える患者様が支援者とともに自身の薬物問題に対する理解を深め、解決に向けた意欲を育むための冊子です。
全4回のコンパクトなプログラムですので、急性期病棟など長期的な介入が難しい場所でもご活用いただくことができます。

▶ First Aid Relapse Prevention Program（FARPP）ご家族のためのQ&A

家庭内の薬物問題でお困りのご家族のために作成した冊子で、薬物依存症に関する知識や回復に役立つ情報を提供しています。家族にも支援が必要なことを伝え、精神保健福祉センターなど家族支援機関を紹介する際などにご活用ください。

▶ 薬物依存症からの回復をみんなで支える地域ネットワーク（連携事例集）

薬物依存症に関する連携支援体制がある程度実現しつつある地域の関係機関から情報を収集し、連携事例集としてまとめました。これから連携体制構築を目指す地域でぜひお役立てください。

▶ ご家族の薬物問題でお困りの方へ（家族読本）

この冊子は、ご家族に対して書かれたものです。薬物問題でお困りのご家族にぜひ知っていただきたい事柄をわかりやすく説明するとともに、薬物依存症者と家族のサポート機関についても紹介していますので、ご家族への情報提供のひとつとしてご活用ください。

▶ 薬物問題相談員マニュアル

薬物依存症治療と回復支援に携わる援助者のためのマニュアルです。薬物依存症に関する基礎知識だけでなく、アセスメントの方法や相談の際の具体的対応など実践的な内容も豊富に盛り込んだ内容となっています。治療や相談支援の現場でご活用ください。

▶ 薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラム（ファシリテーター用マニュアル）

薬物依存症者をもつ家族のためのプログラムで、「実施者向け解説」と「家族用配布資料」の両方が含まれています。5種類の基礎教材と11種類の補助教材がありますので、ご家族のニーズに応じて自由に組み立てて活用いただくことができます。家族教室や個別相談の際にお役立てください。

▶ 薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラム（家族用配布資料）

「実施者向け解説」がなく、「家族用配布資料」のみからなる1冊です。家族用の配布資料を作成する際は、こちらをご利用いただくのが便利です。

▶ 薬物依存症者をもつ家族を対象とした個別面接の進め方（支援者用マニュアル）

薬物依存症者をもつ家族に対する個別相談のためのツールです。動機づけ面接の手法を活かした対人援助技術やインテーク面接及び継続面接の方法をわかりやすく解説しています。

【作成責任者】
引土　絵未　日本女子大学
　　国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部
【作成協力者】
秋元恵一郎　NPO法人東京ダルク
大吉　　努　NPO法人　栃木ダルク
加藤　　隆　NPO法人　八王子ダルク
栗栖　次郎　湘南ダルク
栗坪　千明　NPO法人　栃木ダルク
小高　真美　武蔵野大学
嶋根　卓也　国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部
山村　りつ　日本大学
吉野　美樹　千葉大学附属病院
この冊子は、厚生労働省「依存症に関する調査研究事業」により作成されました。

薬物依存症の方への就労支援に関する研究
就労支援機関を対象とした依存症に対する実態
および意識調査報告書

印　刷・発　行：2022年1月15日
デザイン・印刷：㈱トーキョーアート
問い合わせ先：hikitsuchie@fc.jwu.ac.jp
（日本女子大学　引土絵未）